

# 大人が絵本を 第82回 ブラティスラヴァ



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子\*

小児歯科医師 濱野 良彦\*\*

\* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)  
\*\* 医療法人元気が湧く 理事/ファウンダー

## ワクチン敗戦国にも明るい話題とどく！

新型コロナウイルスの収束を祈り、自粛生活を順守する中、敵は変異して大阪で暴れ出したことが報じられると、心がポキッと音を立てました。そういうのも、2回目の緊急事態宣言が解除された2月末、政府が発表したワクチン接種計画に、かすかな期待がもたれたところ、それはズルズルズルズルと遅れ、結局ワクチンが行き届かない段階で、国民は変異株の脅威と直面することになったからです。そんな心を快方に導いてくれたのは、絵本の明るいトピックでした。

世界最大規模の絵本原画コンクール「ブラティスラヴァ世界絵本原画展(通称BIB)」2021年に、日本から出展する作家が4月27日に発表されたのです。田島征三氏、たしまゆきひこ氏両名を確認すると、国内に何百人という絵本作家の中から前回に続き、厳選15人入りする双子の作家に敬服するしかありませんでした。また、期待の新星作家ミロコマチコ氏ときくちちき氏両者共、近年のBIB常連ぶりに、日本の絵本界の将来に安心を覚え、心はすっかり元気になりました。

1967年に始まったBIBに、ひとつの国から参加できる作家は15人までと決められているため、日本では“日本国際児童図書評議会”(JBBY)が国内選考会を行って出展作家を選んでいます<sup>1)</sup>。今年は4月16日に選考会が実施され、上記の他にも国内推し作家である降矢なな氏、スズキコージ氏などベテランの名が発表されたのです。

## 新人絵本作家、いきなり世界へ

そうそう 錚々たる作家と肩を並べたのは、2018年にデ

ビューしたばかりの新人作家しおたにまみこ氏です。2014年の「第15回ピンポイント絵本コンペ」において、『やねうらおばけ』で優秀賞を受賞し、その作品を見た編集者に見初められて、『そらからきたこいし』でデビューを果たしたのが3年前のことです。

『そらからきたこいし』  
しおたにまみこ 作  
(偕成社)



すると、その年の「MOE絵本屋さん大賞新人賞」でデビュー作が第2位を受賞して、たちまち注目を集めたのです。次には、ピンポイントでの優秀賞受賞作品を大幅に改稿し、すべての絵を新たに書き下ろして『やねうらべやのおばけ』と改題した第2作が2020年に偕成社より刊行されると、「絵本作家しおたにまみこ」はラベルになりました<sup>2)</sup>。

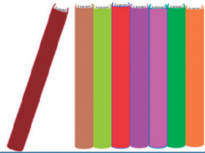
そして、ビブリオキッズの選書者の一人で、絵本研究家の広松由希子氏らが選考委員を務めるJBBYにおける選考会で高い評価を受け、デビューから3年で世界に羽ばたくことになったのです。

その作品とは、今年2月19日に刊行された著者3作目となる絵童話『たまごのはなし』(ブロンズ新社)です。作者の技法である木炭鉛筆画に変わりはないのですが、第1作、第2作とまた異なる世界を描き出し、それが妙に引き込まれてしまうのです。

子ども向けの絵童話とはいえ、その対象は大人にも向けられていることがはっきり伝わってきます。だから、なおのこと木炭画の「たまご」が芸術的に見えるのでしょう。

## 手にするときは！

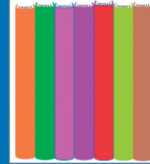
世界絵本原画展2021



企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)



## 世界的評価の証 BIB

ブラティスラヴァ世界絵本原画展 (Biennial of Illustrations Bratislava : BIB) は、スロヴァキア共和国の首都ブラティスラヴァで、隔年 (西暦奇数年) 開催されていますので、2021年は嬉しいコンクール年です。1965年にユネスコと国際児童図書評議会 (IBBY) の提唱により創設されたBIBが、第25回目の2015年には50周年を迎えました。現在は、ユネスコとIBBYの後援により、スロヴァキア国際児童美術館 (BIBIANA) が主催しています<sup>1)</sup>。

その国際審査では、各国や機関からの推薦を受け、BIB国際委員会に指名された10名前後の、国籍の異なる審査員が4日間かけて審査を行います。

2017年に審査委員長を務めた広松由希子氏はその年「9人の審査員の文化的背景や絵本観が大きく異なり、予想以上に票が割れた」一方で、「個性的な審査員の豊かな経験と知識、異なる文化と感覚に基づく意見が行き交う中で、新しい気づきと学びがある」と語っています<sup>1)</sup>。

2017年を例にあげると、ノミネートされた49か国の373作家、488冊の2657枚のイラストレーションを2次審査で100人、3次審査で50人と絞るのですから、想像の域を遥かに超える審査が行われているのです。

行き着く最終審査で11名に絞られ、まず「グランプリ (Grand Prix)」1名が選ばれ、残りの10名より「金のりんご賞 (BIB Golden Apple / Zlaté jablko BIB)」(第2席)5名を選出し、残る5名が「金牌 (BIB Plaque / Plaketa BIB)」(第3席)となるのです<sup>1)</sup>。過酷な環境下で、厳選な審査を経て選出される受賞作品は、画家として名誉ある賞とい

うわけです。



## 突如と現れ異才を放つ ミロコマチコ氏

4回連続して2021年の出展作家に選出されたミロコマチコ氏は、『オオカミがとぶひ』(イースト・プレス)で2012年にデビューしてから、迫力満点の目を引く色使いが高い評価を得るようになりました。その実力は世界的な評価を獲得し、『オレときいろ』(WAVE出版)が第25回(2015年)BIB“金のりんご賞”、『けもののおいがしてきたぞ』(岩崎書店)で第26回(2017年)“金碑”を受賞し、なお本年出展の『ドクルジン』に期待がかかるのです。

『ドクルジン』  
ミロコマチコ 作  
(亜紀書房)



躍動感のある画で異才を放つ新人作家は、国内でも注目的です。デビュー作は、その年2012年の第18回日本絵本賞大賞を受賞、2年後の2014年には『てつぞうはね』(プロンズ新社)で第45回講談社出版文化賞絵本賞を、『ほくのふとは うみでできている』(あかね書房)で第63回小学館児童出版文化賞と、1年間で2つの賞を受賞したのです。

さらに2018年には、これまでにない地球のスケールの野生を見事に現出し、絵本の枠を超えた演劇性や文学性を感じさせる表現のダイナミズムが高く評価され、第41回巖谷小波文芸賞を受賞するのです<sup>3)</sup>。

デビューして10年もしないうちに国内の主要な絵本賞を総なめにしていく恐るべき作家、ミロコマチコ氏から目が離せないのです。



## 瞬く間に駆け上がった きくちちき氏

注視すべき新人作家は、ミロコマチコ氏、しおたにまみこ氏だけではありません。BIBへの出展作家に2021年も選ばれた、さらなる注目の作家とは、ミロコ氏と同じ2012年にデビューしたきくちちき氏、男性です。日本はなんとも絵本作家の宝庫でしょう。

きくち氏はグラフィックデザイナーを経て、2008年から手製絵本を作り始め、個展で発表した作品が評判を呼んで、『しろねこくろねこ』(学研プラス)と、『やまねこのおはなし』(どいかや作；イースト・プレス)で作家デビューをします。すると、そのわずか1年後の2013年、『しろねこくろねこ』でBIB“金のりんご賞”を受賞したのです。その名は瞬く間に世界的に認知され、新進気鋭の絵本作家として注目されることになりました。

絵本作家の力そのものもさることながら、JBBY選考委員の選眼力には脱帽です。日本が絵本大国である理由が、さまざまな要素から納得できるのです。

きくち氏は授賞式の日にご子息が誕生し、新米父となります。以来、愛息を主人公に投影させて絵本を作るようになったと言います<sup>4)</sup>。ご子息の成長を動物や自然の摂理になぞらえて、その都度、作風を変えながら絵本を制作してきた新人作家は、デビューから7年で20冊以上の絵本を生み出しているのです。

そして、2019年には『もみじのてがみ』(小峰書店)でBIB“金碑”を受賞するのです。すっかり絵本作家としての名声が高くなったきくちちき氏に何度、驚かされたことでしょう。何度驚かされるのか楽しみです。

今年、BIBに出展するきくち氏の作品『おひさまわらった』(JULA出版局)は、このコロナ禍を生きるすべての子どもと大人の心に深く寄り添う一冊です。

## わくわく♪ 楽しみな10月15日

ミロコマチコ氏が第26回BIB“金碑”を受賞した

2017年、準グランプリである“金のりんご賞”を受賞した画家も日本人でした。そう聞くだけで嬉しくなりませんか。

受賞者とは、画家の故・熊田千佳慕氏に師事した荒井真紀氏です。受賞作品『たんぼぼ』(金の星社)が、「科学的なイラストレーションでありながら、柔らかい黄から緑の色調で、生命のもつ詩情をよみがえらせた。この作家は、ごくありふれた植物を、審美的な絵画世界にまで昇華した」と高く評価されたのです<sup>1)</sup>。

師匠の熊田氏は“日本のフェアブル”とも呼ばれ、昆虫を美しく描いた細密画の技法をもつのですが、それが似ていて植物の生態画は絵画そのものです<sup>5)</sup>。

福音館書店の月刊絵本「こどものとも年中向き」2019年7月号で荒井氏作『まどのむこうのくだものなあに?』が刊行されると、科学絵本としてのクオリティーの高さに、すぐに大きな反響を呼びました。黒い表紙の真ん中に実際にくり抜かれた「窓」があり、その向こうに赤いものが見えます。ページをめくると…感動があります。2020年10月にハードカバー化された芸術的な科学絵本をJBBY選考委員が見逃すはずもなく、BIB2021出展作家に選ばれたのです。

『まどのむこうの  
くだものなあに?』  
荒井真紀 作  
(福音館書店)



こうしてみると、日本にはまだまだ才能あふれる絵本作家の卵たちがあちこちに隠れていると予測され、次に出てくる新人が楽しみでなりません。

第28回BIBのスケジュールは、2021年10月10日～13日に国際審査、10月15日に記者会見と展覧会オープンが予定されています<sup>6)</sup>。国内作家への期待は果てしなく高まり、この秋が待ち遠しくて仕方ないのです。



## 昆虫好きっ子におすすめなのは…

虫が大好きな子どもたちに、ぜひともすすめてほしい美しい絵本があります。偕成社から刊行されている「昆虫絵本シリーズ」の『しでむし』『ぎふちょう』『つちはんみょう』、その絵は細密に描かれていて息を呑むほどに、生と死の鼓動が伝わってくるのです。

『しでむし』  
『ぎふちょう』  
『つちはんみょう』  
館野 鴻 作  
(偕成社)



作者の館野 鴻氏は元々、学研の『原色ワイド図鑑 昆虫』を皮切りに、『学研の図鑑 生き物のくらし』等々、誰もになじみのある図鑑の絵を描いている方です。図鑑の描写が時代とともに、徐々に絵から写真へ移行していき、残った解剖図と景観図の仕事も減っていった頃、科学絵本の制作を勧められたことがきっかけで絵本作家となるのです<sup>7)</sup>。

そして、昨年9月に出版された最新作『がろあむし』(偕成社)がBIB2021の出展作品に選ばれ、それは同時に絵本作家として認められたということです。館野氏の師匠もまた熊田千佳慕氏ですので、荒井真紀氏ときょうだい弟子に当たります。2人の作品を並べてみると、その超細密画に共通項を見てとれるのです。虹の橋で、熊田師匠が悦に入っていることでしょう。

## 今、世界が目にする作家たち

BIB 国際審査結果発表の頃には、新型コロナウイルスは一体どうなっているのでしょうか。ワクチンが広まっても新たな変異株に脅かされているのか、それとも明るい兆しが見えつつあるのか、後者に期待したいです。それまで、そこそこにある小さな喜びから、ビッグな楽しみまでをどんどん取り入れて、精神的にも健康でいたいものです。

BIB 最終選考に日本人作家が残るか、受賞作とし

て発表されるのか、心が湧き立つフシギな感情を今から抱いています。皆さまにもこの楽しみを共有していただきたいと思いますので、本文では紹介できなかった出展作家を全員ご紹介いたしましょう<sup>6)</sup>。

旭山動物園で25年間飼育員をした後、絵本作家となったあべ弘士氏『うみどりの島』(偕成社)。

1990年代を代表する絵本作家と言われる荒井良二氏『こどもたちはまっている』(亜紀書房)。

股旅姿で全国を渡り歩く作家・飯野和好氏『かふんとみつ』(絵本塾出版)、『火 あやかし』(小峰書店)。

絵本だけでなく挿画・挿絵・CDジャケット・広告の仕事など幅広く活躍しているうえだまこと氏『りすとかえるとかぜのうた』(BL出版)。

保育士として勤務した後に画家・絵本作家となった中野真典氏『ミツ』(佼成出版社)。

詩人・工藤直子氏を実母にもつ漫画家・絵本作家・松本大洋氏『こんとん』(偕成社)。

絵本が手に入らなくても、インターネットでどんなイラストレーションなのかを確認するだけでも楽しいでしょう。クオリティーの高い芸術作品を鑑賞して、子どもと大人の生きる力を養いましょう。

## 文献

- 1) 広松由希子 他編：プラティスラヴァ世界絵本原画展－BIBで出会う絵本のいま、久留米市美術館 他：pp.4-42, 2017.
- 2) HON.jp News Blog 編集部：『やねうらべやのおぼけ』しおたにまみこ / 偕成社 / 5月12日刊行予定, NPO法人 HON.jp <https://hon.jp/news> 2020/2/10
- 3) 公益財団法人日本青少年文化センター：第41回巖谷小波文芸賞受賞決定のお知らせ, 日本青少年文化センター HP <https://www.seibun.or.jp>
- 4) 丹青社：しろとくろ きくちちき絵本展 (武蔵野市立吉祥寺美術館), Internet Museum <https://www.museum.or.jp> 2019/11/10
- 5) 荒井真紀：『まどのむこうのくだものなあに?』(絵本を作る人27), 母の友 no.794 : pp.48-50, 2019.
- 6) 日本国際児童図書評議会：BIB2021 日本からの出展作家決定, JBBY HP <https://jbbj.org/news> 2021/4/27
- 7) 館野鴻 (インタビュー)：「愛するから美しいんだよ」それは師から受け取った言葉。生き様を見れば虫も人間も変わらず美しい (あの人に会いたい! Vol.169), CREATORS STATION <http://www.creators-station.jp> 2019/11/27

